

**白石島親子ふれあい海洋教育（海と日本2023）の検証**

　当社団は、2022年12月12日に島の漁業者が中心になって、担い手が不足している漁業と高齢化する島を活性化するために設立しました。このため、核となる施設の重要性も検討し、「渚の交番事業」への参画を目指していたところ、財団の職員からの奨めもあり、「海と日本プロジェクト」に初応募しました。

　組織発足後の初事業として「白石島親子ふれあい海洋教育（海と日本2023）」を計画し、小学生と親を中心に海に親しみ、興味を持ってもらうことから、島を取り巻く現状と海の課題を知ってもらうことから始めてみようというコンセプトでした。

事業実施後の検証としては、成果と課題が下記のとおり整理できました。

**（成　果）**

1. 地域の親子の参加が思った以上にあったこと。
2. 参加した人の感想としては、　　（アンケートは別紙参照）

・身近な島の魅力の再発見。

・思った以上に海ゴミが問題になっていること。

・子供たちが海を好きになったこと。

・このような機会を増やしてほしい。

など、比較的に馴染みのある笠岡の海について、街に住む人達が知らない、関心を持っていないことに驚きを感じつつ、海ゴミの減少について街から考えないといけないとの声もあり、海ゴミについての意識の醸成ができたこと。

1. 初めての事業であり、最初はスタッフ集めから、役割分担、子供たちへの説明など、慣れない中で、回数を重ねるうちにスタッフ間で、話し合いや反省、提案などがあり、効率的な動きができるようになったこと。
2. スタッフ集めの中で参加してくれた地元の高校の水産部の生徒たちが魚や海の課題について率先して説明するなど、将来に向けて一筋の光が見えたこと。
3. 島に若い親子が訪れることで、島全体に活気が出たこと。

**（課題）**

1. 参加者募集にあたり、チラシを数万枚印刷して教育委員会を通じて全学校に配布するなど、工夫できたのではないか。費用対効果の観点で疑問が残った。

（手間と時間と経費が掛かった）

1. スタッフは高齢者が多く、暑い時期には体調管理も大変だった。若いスタッフの募集と育成をどうするか。今後の検討が必要。
2. 核となる施設が無くて、天候によって説明する場所を探す必要があり、海水浴場の休憩所を活用したが、夏場の利用が困難だった。島には公共施設が少ない。
3. 島のネット環境が悪く、組織としてパソコンの設置が出来ず、ホームページの作成が途中で止まってしまった。個人のSNSに頼ることしかなく、今後の情報発信手法の検討が必要。
4. 事業の休憩時間に参加者の子供がクラゲに刺され、救急艇で病院へ搬送される事象が発生した。注意喚起はしていたが、説明方法、スタッフの配置、対象年齢による開催時期（クラゲが発生しない時期）などの検討が必要。

事業の目的は、ある程度達成出来たと考えているが、事業をやっただけで終わらせず、何へつなげていくか、将来的な展望が必要であると感じている。

この事業を通じて芽生えた小学生が将来へつなげて関心を持って行動してもらうためにも、対象年齢別の事業内容も創設して繰り返し実施していく重要性を実感した。

また、この事業に係わるスタッフの育成も大きな鍵を握っている。幸いにして近隣の高校生が積極的にスタッフとして参加してくれていることから、この流れを継続して、当社団としても成長していく必要があると感じた。